

今年度第7号のメールマガジンをお届けします。

11月9日に公立高等学校入学者選抜にかかる第1回志願者予備調査の結果が発表されました。進路決定の参考に、県立高等学校の魅力ある取組など有意義な情報をお伝えしますので、ご活用ください。

11月6日から宮城県のホームページがリニューアルされました。高校教育課等のアドレスが変更になっていますので、注意してください。

公立高校ガイドブック、前期選抜入試に必要な志願理由書、平成25年度宮城県公立高等学校入学者選抜一覧などの情報は、上記の高校教育課のページを御覧ください。

<それぞれの公立高校ホームページはこちらから>

⇒ <http://www.pref.miyagi.jp/site/kyouiku/koukou.html>

■ もくじ ■

1 高校の特色ある取組（各高等学校からの情報）

(1) 仙台二華高等学校

<仙台二華の特色ある取組, インターナショナル・スタディとサイエンティフィック・リサーチとは>

(2) 泉高等学校

<本校初の「研修旅行」>

(3) 一迫商業高等学校

<スペシャリストへの道筋 ～栗原版デュアルシステム～>

(4) 伊具高等学校

<1年次「職業人インタビュー」を実施します。>

2 学校紹介スペシャル（各高等学校からの情報）

(1) 仙台南山高等学校

<コンパクトさを活かしたトライアングルアシストで
“あなた”を実現します>

3 コラム（各高等学校からの情報）

(1) 泉館山高等学校 校長 小笠原 朋之

<泉館山高校の魅力に取り込まれた私からのメッセージ>

(2) 石巻西高等学校 生徒会長

<生徒会長から>

(3) 石巻北高等学校 3年次生徒

<系列の学びを振り返って>

に改め、今月末11月28日～30日の2泊3日、東京方面で実施します。

これは、「クラス研修」「進路研修」「文化・芸術研修」の3つの研修からなり、生徒たちが自ら企画を立て、業者にプレゼンテーションをしてクラス研修のコースを決め、そのコースに基づいて各々班別に大学等研究機関に問い合わせをして研修先を決めます。さらに、文化施設の見学や芸術鑑賞をそれに加えて全コースを完成させます。

旅行のプランを立て、業者や外部機関とかかわりながら、旅行を実施し、旅行後、今度は1年生に研修の成果をプレゼンテーションするまで、様々な要素がこの研修旅行には盛り込まれています。今後、この行事を本校における「志教育」の要と位置づけ、さらに実りあるものに育てていきたいと考えています。

→<ホームページはこちら> <http://izumihigh.myswan.ne.jp/>

□ (3) 一迫商業高等学校

| <スペシャリストへの道筋 ～栗原版デュアルシステム～>

9月号では、「教育課程の特色」についてお知らせいたしました。今回は、本校が取り組んでいる『栗原版デュアルシステム』について簡単に述べたいと思います。

本校は、平成17年度より三年間、文部科学省の指定を受け、『栗原版デュアルシステム』を実施し、現在も継続して取り組んでいます。

1年次においては、社会人講話や企業見学、2・3年生による「栗原版デュアルシステム発表会」に参加し、勤労観の育成を図っています。2年次においては、インターンシップ体験や社会人講話により、勤労観の育成を図っています。3年次においては、栗原版デュアルシステムの中心的な取り組みを行っています。

科目「課題研究」の中で「起業家研究班」と「販売実習班」に分け活動をしています。昨年度「起業家研究班」において地元企業の協力により“三色むすび弁当”や“栗原まるごと米（マイ）ピザ”の商品開発をし、各関係機関から好評を得ました。また、平成17年度開発商品「米ていら」は「みやぎものづくり大賞」においてグランプリを受賞しています。「販売実習班」においては、空き店舗を活用した「がやがや」（ショップ）をはじめ、“一迫新米まつり”や“栗原産業まつり”等、多くのイベントに参加し、マーケティングや接客マナーについて学習するとともにコミュニケーション能力の育成を図っています。さらに学校設定科目「企業実習」においては、地域企業の支援を頂いて約20日間の長期企業実習を行い、望ましい職業観や勤労観を育成しています。

「米ていら」をはじめ、本校開発商品を見かけましたら是非ご賞味ください。

→<ホームページはこちら> <http://ichisho.myswan.ne.jp/>

□ (4) 伊具高等学校

| <1年次「職業人インタビュー」を実施します。>

今年も総合学科の必修科目である「産業社会と人間」の中で職業人インタビューを実施する時期になりました。職業人インタビューとは、企業見学や職業人へのインタビューをすることにより、将来の職業選択や自分の生き方について考える取組です。

また、生徒が職業に対する理解を深めると同時に進路を開拓することや、じっくり考えるきっかけになってほしいと考えています。今年は約20社の協力を得て会社見学を兼ねて社員の方々に質問する機会をいただけています。

- 実施日 ・平成24年11月1日（木）
コース数 ・1コース約15人で構成します。
見学する会社数・訪問地域
・1日で2～3社の見学およびインタビューを行います。
・主に丸森町や角田市内の企業・事業所に伺います。
対象学年 ・1年生です。2年生では将来の職業意識を明確なものとしてとらえることを目的としたインターンシップを実施しています。

→<ホームページはこちら> <http://igu.myswan.ne.jp/>

■ 2 学校紹介スペシャル ■

高等学校の特色ある取組を含めて学校の取組全体をくわしく紹介するスペシャルコーナーです。

□（1）仙台向山高等学校

＜コンパクトさを活かしたトライアングルアシストで
“あなた”を実現します＞

仙台向山高校は、「自律・和敬」を校訓とし、歴史と伝統に支えられた清新で自由な校風の中で、生徒一人ひとりが自主的・主体的・計画的・実践的・探究的な学習活動を行っています。

「魅力と活力ある肥沃な学校づくり」を重点目標に掲げ、生徒一人ひとりの夢と希望の実現のため、希望進路の実現・達成を最重要課題として、すべての教職員の強力な絆・チームワークを築きながら、より質の高い教育活動を展開しています。

学習面だけでなく部活動や普段の生活でも、あなたの目標ややる気をアシストする学校です。

キャッチフレーズ「コンパクトさを活かしたトライアングル・アシストで“あなた”を実現します」を掲げています。本校は1学年5クラスの“コンパクト”な学校です。

トライアングル・アシストとは次の3つのアシストをさします。

- ①あなたの学びを確実にアシスト。
- ②あなたの希望実現を綿密にアシスト。
- ③あなたの高校生活を強力にアシスト。

3つのアシストで、深く学ぶ力（考察力）、希望を達成する力（実現力）、しっかり踏み出す力（前進力）を育てます。

充実した3年間が待っていますので、多数の中学生の方が志願されることを心から期待しています。

→<ホームページはこちら> <http://mukaiyama.myswan.ne.jp/>

■ 3 コラム ■

高等学校の校長先生，一般の先生，生徒代表などが，「我が校」に対する想い，最近の話題などについて語ります。その高校の新しい魅力が発見できるコーナーです。

□（１）泉館山高等学校 校長 小笠原 朋之

｜ <泉館山高校の魅力に取り込まれた私からのメッセージ>

早いもので，今年も残すところ2か月となりました。初雪の便りが届く季節です。本校は，今年創立30周年を迎えました。昭和58年4月，中学卒業生数の急増対策として仙台西高校，宮城広瀬高校とともに誕生しました。本県では初の3校同時開校であり，これ以降もこのようなケースはありません。30年前，東北新幹線が開通し，宮城県が，仙台市がまさに発展していこうとする時期にあわせるように，本校も年輪を重ねてきました。同窓生は，平成24年3月に卒業した27回生を加えて9,061名を数えます。平成15年度から「生徒一人ひとりの夢の実現を目指して」を合言葉に，3年間で身につけたい力として〈人間力・学習力・進路選択力〉の三つを柱としたサポートプラン「大志21」に取り組み，国公立大学現役合格100名以上を維持していること，現役進学率が県内でも有数の成績を上げていることなど，県下屈指の進学校として大きく羽ばたいています。

また，校訓「自律・敬愛・貢献」のもと，本校ならではの魅力を作り出してきました。クラス・学年の団結が深まり，生徒一人ひとりが輝く「館高三大行事」（7月球技大会・8月末翠縦祭・10月体育祭）。5月の泉三校定期戦（泉高校・泉松陵高校・本校）では，各校意地と誇りをかけて戦います。館高生は帰属意識を高め，自覚と誇りをはぐくんでいきます。

本校生は，ひたむきです。部活動と学習の両立に向けて努力を惜しみません。30周年記念事業として新たに設けられた「進路学習室」は朝の始業前，放課後いつも満席です。あふれた生徒は自学自習できる場所ならどこでも勉強しています。

生徒の有志が館高30thアニバーサリープロジェクトを立ち上げ，本校のマスコットキャラクター「ティム」を誕生させました。生徒たちが創意工夫を重ね，自らの校風を作り出す「館高精神」がしっかりと息づいています。

本校は緑（翠）豊かです。その中でも，校木のモミ（縦）が天空高くそびえています。本校生が志高く大きな理想に向け，進んでいく姿を表しています。泉館山は楽しみです。これからも生徒一人ひとりが夢の実現に向け，成長していきます。

→<関連HPはこちら> <http://izumit-h.myswan.ne.jp/>

□（２）石巻西高等学校 生徒会長

｜ <生徒会長から>

石巻西高校は「文武両道」という目標を掲げ，生徒一人ひとりが勉強や部活動に励んでいます。

学習面では、どの授業も先生と生徒が一生懸命にとりくんでいます。特に、本校では国際交流の時間を設けて外国の方々をお呼びして、生徒が積極的に英語を使い交流をしています。

部活動では、どの部活動も顧問の先生方の指導のもと、日々練習に励んでいます。特に、昨年は、女子弓道部の四選手が第三十回全国高等学校弓道選抜大会の団体の部で準優勝の快挙を成し遂げました。

また、行事では生徒全員が一丸となり、西翔祭、体育祭、マラソン大会など数々の行事を作り上げており、楽しく学校生活を送っています。

そして、本校では、日々の生活の中で、学習することの大切さや楽しさ、先輩方の偉大さや後輩のありがたさ、そして友の大切さなど、多くのことを学び、充実した高校生活を送っています。そして高校での時間を大切にしている本校の生徒は必ず立派な人間に育っているはずでしょう。

→<関連HPはこちら> <http://inisi.myswan.ne.jp/>

□ (3) 石巻北高等学校 3年次生徒

┆ <系列の学びを振り返って>

9月号では、交流ひろば販売所「と・ら・ま・い」での食農、経情の各系列の活動について紹介いたしました。今回は他の3系列の取り組みをご紹介します。

家庭系列3年次生

家庭系列では、フードデザインや被服製作、看護福祉などの授業を通して、他の系列では学べない専門的な知識や技術を身につけることができました。また、新聞エコバックやレシピなどを製作し、校内にある販売所で配付し、地域の方々にとっても喜んで頂きました。今後は授業で学んだことを活かして、色々な事に挑戦し、家庭系列の活動をもっと活発にしていきたいと思います。

教養系列3年次生

教養系列では、放課後の学習会や、いろいろな資格を取得するための学習を行っています。放課後の学習会では、就職試験に向けた学習を進め、その学習会に参加をしていると就職試験に出そうな問題が分かるようになるので、とても自分のためになります。また、資格取得にも力を入れており、資格をとっておくと、就職や進学をする時などにも役立ちます。自分の進みたい就職先でも、「この資格が必要」と書かれてある場合もあるので、資格はできるだけとっておいた方がいいです。

進学系列3年次生

私たち進学系列は他の系列と違って1年次からほとんどの人が同じクラスです。そのため、クラスメートの仲がよく勉強も行事もおたがいに切磋琢磨しながら協力してやっています。放課後には、推薦入試で合格した人がこれからの人に面接の練習をしてあげています。また、先日は校内ロードレース大会の日に公務員が2名合格し、ロードレースの優勝と合わせてみんなで祝勝会を行いました。

→<ホームページはこちら> <http://ishikita.myswan.ne.jp/>

□ (4) 水産高等学校 教諭 吉田 愛美

| < Grateful Breeze >

宮城県内にヨット部が存在する高校は8校。たった8校?!と思うかも知れませんが、実は宮城県が全国で一番たくさんヨット部がある県なのです。“ヨット競技”はエンジンを使わず、セール（帆）のみを使い、風や潮を利用して船を進ませる競技です。

昨年学校が被災した際、ヨットが流失し、練習や試合のためのヨットの確保が難しくなり、部活動に大きな支障が出ました。時が経つにつれて、多くの方々からの支援や励ましのおかげで、少しずつ練習ができる環境が戻ってきました。そして今年の夏は、ヨットに乗れる喜びを噛みしめながら土日も休まず毎日練習しました。

その喜びの中で、部長はただの一度も部活を休まず、たとえ具合が悪くても必ず部活に来る生徒でした。誰よりも物を大事にし、準備や片付けは誰よりも早く、作業が正確で他の部員の模範となる人物に変わってきた彼は、まさに進取（進んで物事に取り組む）の精神に富んでいました。

今年6月の県総体壮行式。普段無口なヨット部長から発せられたのは、「頑張ってきます」の一言でした。しかし、そんな彼が率いるヨット部は夏の猛練習の成果を発揮し、今年6月の県総体で37年ぶりに個人と総合で優勝することができました。東北大会では入賞することができませんでしたが、今年度の全成績の結果から、国体選手として部長ペアが選ばれました。

「頑張ってきます」としか言わなかった彼が、国体壮行式では、「ご指導してくれた顧問の先生、ご支援いただいた方々に恩返しができるように頑張ってきます。」と話しました。私は、彼の心の中の大きな変化を感じました。その言葉は、形ばかりの社交辞令ではなく、“本心から出た言葉”として私の心に深く、深く、染み込んできました。

ヨットや練習場所を失った絶望感の中、ヨットを譲っていただくご支援をいただきながら、ようやく希望が見えてきた頃に、再び練習場所を失うなどのトラブルが発生、それらを共に乗り越え、共に一喜一憂してきた私たち顧問と生徒の間には、確かに“絆”が生まれていたように思います。「恩返しをしたい」その一言に、

“流失したヨットを何とか調達してくれて、土日も夏休みも朝から晩まで休まず部活についてくれた顧問の先生と、支援してくれた多くの人たちのおかげです”という感謝の気持ちが込められていたことが十分に伝わり、私は涙してしまいました。

良い結果を残すことが、部活動の本当の目的ではありません。“感謝の気持ち”、“元気な挨拶”、“素直さ”、“苦しくても耐え抜く精神”など、人として生きていく中で無くてはならない心を身につけることが部活動の最大の目的だと思っています。それらは技術的な向上よりも尊いものです。部活動で、技術や知識を身につけるよりも、もっと大切なことが得られたなら、全国大会に出場するよりも、ずっと価値のあることだと思います。そこに気付いてくれた生徒の顧問になれたことが最高に嬉しい今日この頃です。

→<ヨット部の大活躍はコチラでチェック!>

<http://miyagisuisan.myswan.ne.jp/>

□ (5) 宮城広瀬高等学校 総務部長 奈須野 文人

| < 而立 >

今年、本校は人間でいえば「而立」(『論語』)という節目を迎えました。それは、「宮城広瀬高等学校」のあり方について確固たるものが築きあげられていなければならない、ということです。そういう視点で考えてみると「学習面での頑張りとともに部活動やボランティア活動で頑張る生徒が多くいる学校」と言えます。

本校では運動部とともに、文化部も活躍しています。文化部の活躍は、マスコミ等で報道される機会が少なく、あまり知られていませんのでこの場を借りて紹介します。

吹奏楽部が「全日本マーチングコンテスト」で10月28日の東北大会で金賞を受賞し、全国大会出場を決めました。「全国大会に3年連続で出場した場合には1年休む」というきまりのために、現在の2、3年生は「全日本マーチングコンテスト」の予選を昨年度は経験していません。ということで全国大会までの道のりを暗中模索の状態に取り組んできたと思います。しかし、先輩から受け継がれたものが生きていたということ、結果が証明してくれました。

その他、放送部、演劇部も全国の舞台を視野に入れて日々精進を続けています。

→<ホームページはこちら> <http://hirose-h.myswan.ne.jp/>

□ (6) 蔵王高等学校 3年 村上 雅
| <ねんりんピック宮城・仙台2012に参加して>

10月13日から16日に宮城県で行われたねんりんピックに、我が蔵王高校生徒全員が補助員として参加しました。ねんりんピックは、60歳以上の方々の健康と福祉を目的として開催されるもので、様々な種目が県内13市町でそれぞれ行われる中、蔵王町で開催されたゲートボールの大会にも全国から大勢の方々の参加があり、開催期間中活気にあふれていました。

この大会には、全校生徒で制作した巨大モザイク壁画を展示させてもらい、多くの方々に高い評価をいただきました。蔵王を代表する「お釜」を184、800枚の折り紙を貼って制作し、大切な自然と文化を、震災を経験しながらも守り伝えていきたいという復興への思いや支援をいただいた全国の皆さんへの感謝を表しました。

そして、ねんりんピックの両日、僕たち蔵王高生は、受付や開会式のプラカード、試合の得点ボード係、ゴミの点検、各イベントのコーナーのスタッフなどいろいろな仕事を分担して働きました。このような体験は地元根付いて、地元貢献する活動に取り組んでいる蔵王高校ならではのものだと思います。

僕は、陸上部として選手待機所の向かい側にあった「健康づくりコーナー」のスタッフを任されました。コーナーには血管年齢や体型・体脂肪を計る機械があり、その隣には「肩もみコーナー」がありました。僕は主に肩もみを担当して、5人体制で行いました。大会が始まってからはとても大変でした。始まったばかりの時は少人数で収まっていたのですが、選手の人たちの評判が良かったためか、お昼を過ぎた頃から急激に人数が増え、列ができるほどに来てもらい、時には他の場から手伝いに来てもらわないといけなくらいに人気があったのです。選手の方から肩もみが終わると毎回のよう「とても上手で、楽になりました。」「孫にもんでもらった気分が良かったです。」などととても褒めていただきました。たくさんの人を何分もずっとみっぱなしで、親指が痛くなったりと大変でしたが、帰っていく人の笑顔や感謝の言葉をもらうととても良い気分でした。

初めて対面した他県の選手へのさりげない思いやりや、何かをしてもらった時、

そこにいる全員に感謝の気持ちを何度も表現するといった気遣いを肌で感じ、部活動の中からだけでは得られない大切なものを学びました。その経験をこれから飛び込んでいく社会へのステップにしていきたいと思います。

→<ホームページはこちら> <http://zao-h.myswan.ne.jp/>

■ 4 お知らせ ■

高等学校からのさまざまなお知らせのコーナーです。

□ (1) 柴田高等学校

| <「生徒の活躍の紹介」と「平成25年度入試について」>

<生徒の活躍の紹介>

今年度の学校生活や部活動等での生徒の顕著な活躍の一部を紹介します。

県高校総体： ウエイトリフティング学校対抗男子1位・女子1位，剣道女子団体3位，体操競技男子団体2位，柔道男子団体3位，女子団体2位，陸上競技学校対抗男子3位・フィールド1位

東北高校総体： ウエイトリフティング団体1位，柔道女子団体2位，水球2位

インターハイ： 陸上競技ハンマー投げ5位，ウエイトリフティング女子団体4位，体操競技，柔道及び水球出場

岐阜国体： ウエイトリフティング部85kg級ジャーク3位，陸上競技5，000m競歩3位

他の運動部，文化部も，さまざまな場面で活躍しています。

<平成25年度入試について>

すでに公表されているとおりです。改めてご覧ください。

1. 募集定員について 《普通科》男女120名 《体育科》男女40名
2. 前期選抜について
イ 学科別の募集割合等 普通科 定員の20%以内（24名以内）
体育科 定員の50%以内（20名以内）

□ 出願できる条件

《普通科》

(1)の条件を満たし，(2)～(4)のすべてに該当していることを自己アピールできる者

(1) 中学校2，3年の5教科（国，社，数，理，英）の評定平均値が3.5以上である者【調査書】

(2) 意欲を持って学習や部活動に取り組み，自分自身を高めたい者

(3) 進路について明確な目標を持ち，その実現に向けて努力できる者

(4) 生徒会活動や部活動または校外活動に意欲的に取り組んできた者

◆(1)は「資格確認の対象とする条件」である

《体育科》

(1)の条件の①・②のいずれかを満たし，(2)～(4)のすべてに該当していることを自己アピールできる者

- (1) ①スポーツ活動において県大会以上に出場した者【調査書】
 ②実績はなくとも①と同等の運動能力を有することを自己アピールできる者
- (2) 学習と部活動を両立し、将来の進路について明確な目標を持ち、実現に向けて努力できる者
- (3) 本校が指定する専門実技種目を3年間継続する強い意志を持った者
- (4) スポーツで全国レベルの選手として活躍したい者
- ◆(1)の①は「資格確認の対象とする条件」である

ハ 学力検査

《普通科》 国語, 数学, 英語 各100点 計300点

《体育科》 国語, 数学, 英語 各 25点 計 75点

ニ 学校独自検査

《普通科》 個人面接(配点75点) 10分

《体育科》 個人面接(配点25点) 10分 体育実技(配点275点) 45分

◆「体育実技」は基礎的な運動能力や出願時に届け出た専攻実技種目(本校指定の7種目の中から1種目)に関連する技術や能力をみる。

3. 後期選抜について

イ 学科別募集人数 普通科 96名(予定) 体育科 20名(予定)

ロ 面接・実技の有無 普通科 なし 体育科 体育実技

ハ 傾斜配点の有無 各学科ともなし

ニ 調査書点と学力検査点の比重 各学科とも 5:5

→<ホームページはこちら> <http://sibata.myswan.ne.jp/>

■ 5 編集後記 ■

「みやぎ高校生マナーアップ運動」の一環で、県内の高校生が集まり、いじめ問題をとおして「心のマナーアップ」を考えるワークショップが11月3日に開催され、生徒それぞれができることは何かを考え、有意義な時間を過ごしました。

中学生、特に受験生のみなさんは、これから勉強中心の生活になると思いますが、勉強以外にも大切なことがたくさんあります。

来年4月に、心身ともに成長したみなさんに会えることを楽しみにしていますので、悔いの残らないよう、いま、現在に最善を尽くして下さい。

これからも各高校の様々な情報をできる限りお伝えしたいと考えておりますので、「高校教育課 情報メール」をよろしくお願ひします！

◇◇◇高校教育課 情報メール(メールマガジン)◇◇◇

○発行：宮城県教育庁高校教育課

〒980-8423 宮城県仙台市青葉区本町三丁目8-1

TEL：022-211-3626 / FAX：022-211-3696